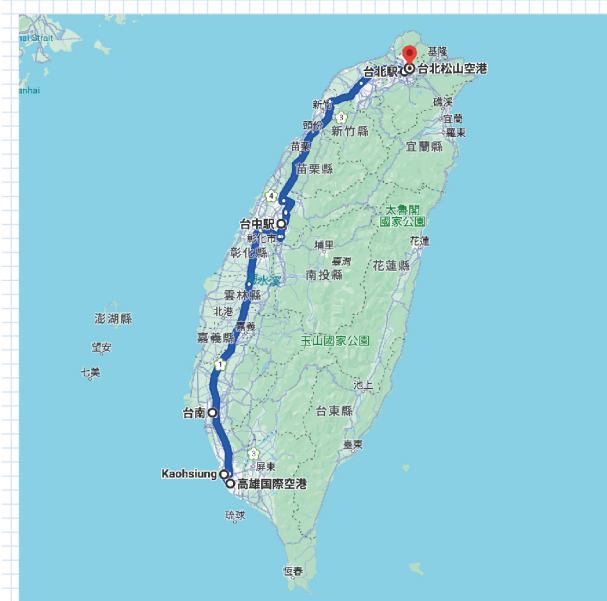




台湾を北から南へ縦断しながら、 建造物から歴史を学ぶ



阿部菜々美・小林奈央
前島麗・室田真菜
東京女子大学

エリア

北部 中部 南部

テーマ

歴史 文化 建築 芸術・文学 食文化



学びのポイント

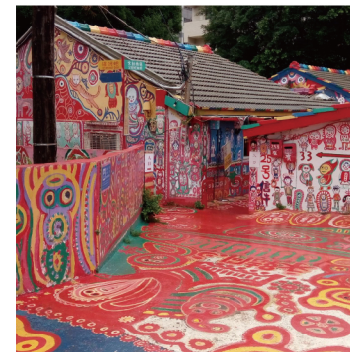
台北から高雄まで、台湾を縦断するツアーです。1日目の台北では台湾の歴史的建造物をめぐり、中華民国建国の歴史や伝統的な建築様式を学びます。2日目の台中では、台湾の民俗や文化を学びます。眷村や実際に使われていた建造物を訪れ、民俗や文化を体験できるコースを組みました。3日目は台南です。台南ではオランダ統治時代の歴史を学びます。当時使用されていた倉庫や城をめぐり、その頃の外交についても学ぶことができます。4日目は高雄です。高雄では日台関係の歴史を学べるコースを組みました。日本人が住んでいた村や戦争中の防空壕に足を踏み入れて日本統治時代の歴史を学びます。蓮池潭など有名な観光地も組み込み、最終日まで台湾を楽しめるようにしました。伝統的かつ歴史的背景が色濃く残る建造物をめぐり、直感的に歴史を学ぶことができるツアーです。

参考文献

赤松美和子・若松大祐 編『台湾を知るための72章 第2版』明石書店 2022年

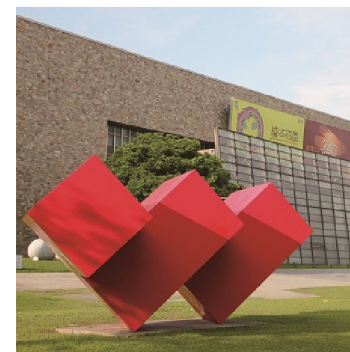
大東和重『台湾の歴史と文化』中公新書 2020年

後藤治監修 王恵君・二村悟 著『図説 台湾都市物語 台北・台中・台南・高雄』河出書房新社 2010年



彩虹眷村(台中市)

眷村は第二次世界大戦後に中国大陸から移住した軍人やその家族たちが集住した地域です。彩虹眷村は、この村の住人である「黄じいさん」(黄伯伯)こと黄永阜さんが村全体に描いた絵で埋め尽くされており、台中観光の中心地となっています。人口減少に伴い、この村の再開発計画の話が出ていた2008年のある日から、黄じいさんは「退屈だったから」という理由で、思いついた絵柄をひたすら描き続けていきました。



国立台湾美術館(台中市)

台湾唯一の国立美術館で、台湾最大規模を誇る美術館です。日本統治期以来の台湾人画家の作品が数多く收藏、展示され、実際の作品を見ながら台湾美術史の理解を深めることができます。美術園道という景観ゾーンが隣接しており、北側には科学美術館があるなど、台中で最も芸術と文化の雰囲気があふれるエリアに位置します。



宮原眼科(台中市)

日本統治時代の1927年、日本人の宮原武熊という眼科医が開院しました。宮原医師が日本に帰国した後は「臺中衛生院」として使用されたこともありましたが、その後、バイナッブルケーキとチーズケーキで有名な日出グループが、1年半の時間を費やし建物を修復。宮原眼科は台中を代表するスイーツ店というだけでなく、日台の歴史に深く関わる場所にもなっています。



国立台湾文学館(台南市)

建物は日本統治時代に台南州庁として建設され、100年以上の歴史があります。館内では文学に関する展示をはじめ、建物の歴史や構造に関する展示もされています。台湾がオランダや清朝、日本に統治されていた時代や戦後の中華民国との関係を背景に、言語の多様性が際立つ台湾文学に触れることで、台湾の過去や移り変わりを捉えることができます。



高雄市立歴史博物館(高雄市)

日本統治時代に市庁舎としてつくられた建物で、1998年に高雄市政府が移転したのち歴史博物館として新しい観光スポットに生まれ変わりました。薄い緑色の外壁と緑の瓦屋根が目目をひく帝冠様式の建物は、アーチ型の天井を持つ回廊や大理石が豪華な階段ホールなど、美しい建築が見どころです。日本統治時代に建設されたとあって、建物のいたるところに日本を感じさせるデザインを見つけることができます。

| | |
|--------|--------------|
| 1 目 | START 台北松山空港 |
| | 台北 |
| | 国立故宮博物院 |
| | 国民革命忠烈祠 |
| | 国立中正紀念堂 |
| | 總統府 |
| 2 目 | 台中 |
| | 彩虹眷村 |
| | 国立台湾美術館 |
| | 台湾民俗文物館 |
| | 審計新村 |
| | 宮原眼科 |
| | 台中第二市場 |
| 3 目 | 台南 |
| | 国立台湾文学館 |
| | 徳記洋行 |
| | 安平古堡 |
| | 奇美食品幸福工場 |
| | 高雄 |
| 4 目 | 高雄 |
| | 蓮池潭 |
| | 哈瑪星 |
| | 高雄市立歴史博物館 |
| | 六合觀光夜市 |
| | GOAL 高雄國際空港 |

※こちらのコースは「みんなの台湾教育旅行記」2023年10月に募集したものをベースに加筆・添削し写真の一部差し替えています。